

ぼーれぼーれ(Pole pole)
スワヒリ語で
「ゆっくり…」
という意味です

ぽれぽれしター ぽれぽれしター

第12号
2010.4.8



理念

「人とよりそう ひらかれた病院」

病院基本方針

※安心・安全ながん医療を提供します
※医療連携を進め、地域医療に貢献します
※豊かな人間性を持った医療人の育成に努めます

診療案内

内科 外科 脳神経外科
整形外科 耳鼻咽喉科 (休診中)
婦人科 泌尿器科 放射線科
消化器科 緩和ケア科
乳腺外来 腫瘍外来

【診療受付時間】

午前8:30～正午

【診療時間】

平日 午前9:00～午後5:00

土曜 午前9:00～正午

【外来の休診日】

日曜・祝日・年末年始

【お見舞い時間】

正午～午後8:00

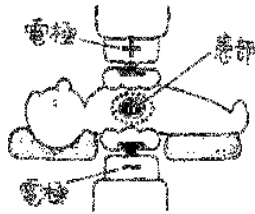


特集：温熱療法（ハイパーサーミア）って何？

—がんが熱に弱い理由—

病院長 中村仁信

癌の治療についての関心が広まってきていますが、温熱療法（ハイパーサーミア）についてはまだまだ理解されていないことが多いのです。私自身も温熱療法を担当するまでは詳しく知らなかったほどです。温度が60度以上に上がると、ゆで卵のように熱でたんぱく質が固まってがんが死にます。



しかし、人体の深部ではそれほど温度が上がらないだろうから、温熱療法は効かないだろうと考える人も多くいます。しかし実際には41度を超えるとがんの遺伝子は傷つきその結果、中には細胞が壊れていくものもあります。

この現象は放射線を当てたときや活性酸素が遺伝子を傷つける様子に似ています。さらに温度が42.5度を超えると細胞が壊死（完全に死んだ状態）する姿が急に増えています。

私がこの現象に納得した一枚のスライドがありました。

それは細胞レベルの実験ですが、がん細胞はわずかしかならないといわれる41度の温熱と、これもがん細胞はほとんど死なないといわれるごく軽い放射線照射の両方を加えたとき、かなりのがん細胞が死んでいるのです。

さらに細胞レベルでは差はみられなくても、かたまりになるとがんは熱に弱いのです。その理由は次のように考えられています。温度が上がると正常組織では血管が拡張して血流が増え、血液が熱を運び去ってくれます。つまり血管がラジエーターの役割をしてくれるので温度は上がりにくいのですが、がん組織の血管は未熟なので拡張できないため、組織から熱を運び去ることができません。そのためがん組織は温度が上がったままの状態が続くのです。しかも同時に、がん組織は血管が拡張しないため低栄養、低酸素状態になり、より一層熱に弱くなると考えられます。

抗がん剤と温熱療法を併用すると抗がん剤はがん細胞に移行しやすくなり、少ない抗がん剤でも効く可能性があります。さらに、温熱により免疫細胞が活性化することも証明されています。

温熱療法は日本ハイパーサーミア学会も学会誌もある科学的な治療法なのですが、今なお民間療法と同じレベルでお考えの方が多いのは残念なことです。

画像診断部スタッフ紹介



上山さん 原田さん 村井先生 澤野さん
福西技師長 板谷さん
三浦さん 寺内さん 中島さん

「夢にときめけ！明日にきらめけ!!」



彩都の町から

茨木市立キリシタン遺物史料館



茨木市には隠れキリシタンの里があります。大正8年に茨木市干提寺(せんたいじ)の山林でキリシタン墓碑が発見されたことを皮切りに様々な貴重な遺物がこの地で発見されています。教科書などで目にするイエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエル画もこの地で発見されたものの一つです。

もともと茨木市の山間部は代表的なキリシタン大名で高槻城主だった高山右近の領地だったので、キリスト信徒になった



領民も多かったのですが、豊臣秀吉や徳川家康によるキリシタンに対する厳しい弾圧から逃れるために、領民は山奥深くに隠れて信仰を続てきました。

多くの受難を経験したキリスト信徒ですが、干提寺にあるキリシタン遺物史料館にはその信仰の深さと信仰を続ける苦労を偲ばせる史料が展示されています。

この史料館は病院から車で約20分の距離にあります。ぜひみなさんも歴史のロマンに想いを馳せて足を運んでみてはいかがでしょうか。(1)

茨木市立キリシタン遺物史料館

住所：〒568-0098

茨木市大字干提寺262

電話：072-649-3443

開館時間：

午後9時30分～午後5時

ただし月曜日は午前9時30分～正午

休館日：毎週火曜日、国民の祝日、年末



「こんにちは！」



②2010大阪国際女子マラソン

ほろちろ かわり

薬師部 竹一 香さん (写真右)

2010年1月31日(日)

大阪国際女子マラソンに参加

2時間56分29秒(49位)で

完走しました。

＜自己ベスト＞

フル：2時間43分49秒

ハーフ：1時間16分57秒

編集後記：この4月から新しく2名の編集委員が加わり、フレッシュにスタートしました。皆様に楽しく分かりやすい情報を提供します。

これからも「ぼれぼれ」をどうぞよろしくお願いたします。(N)

発行者：中村仁信(病院長) 〒567-0085 茨木市彩都あさぎ7丁目2番18号

編集長：小田忠文(医局) TEL072(641)6898 Fax072(641)6097

編集委員：西田真弓(心理) 板谷充子(渉外) 岩田健太郎(薬剤) 寺内香澄(放射)

